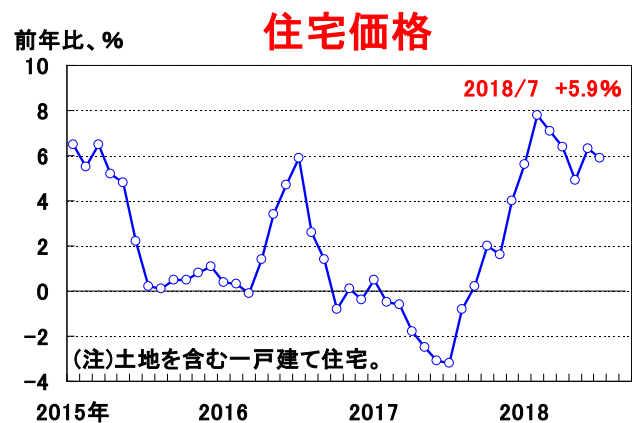
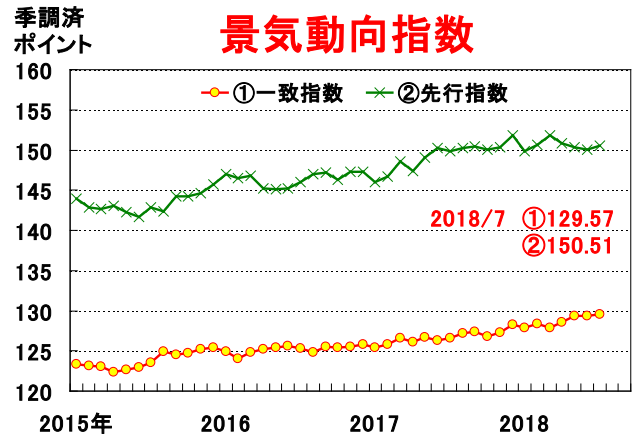
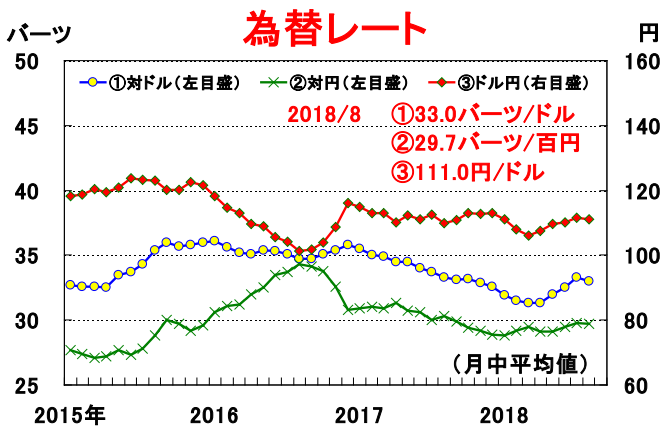
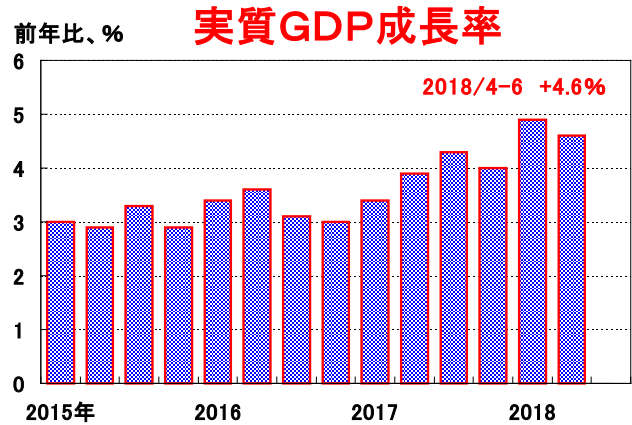
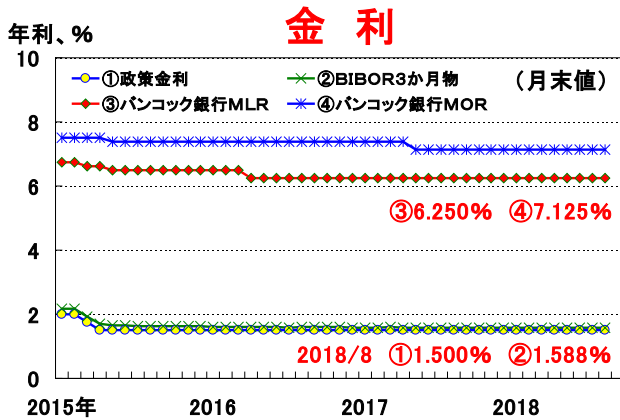


# グラフで見るタイ経済 2018年9月号(No. 111)

2018年4～6月期の実質GDP(国内総生産)は前年比+4.6%と前期の同+4.9%から減速した。個人消費が約5年ぶりの高い伸びとなり、また総固定資本形成も2期連続で伸びを高めたものの、政府支出が増勢を弱めたことなどが成長率を押し下げた。一方、直近の月次指標をみると、主力産業の自動車の生産台数は7月に前年比+15.1%と、国内販売の堅調な増加を背景に、5か月ぶりの高い伸びとなった。また、8月の企業景況指数が51.4と4か月連続で中立水準の50を上回り、企業マインドは足元で緩やかに改善している。



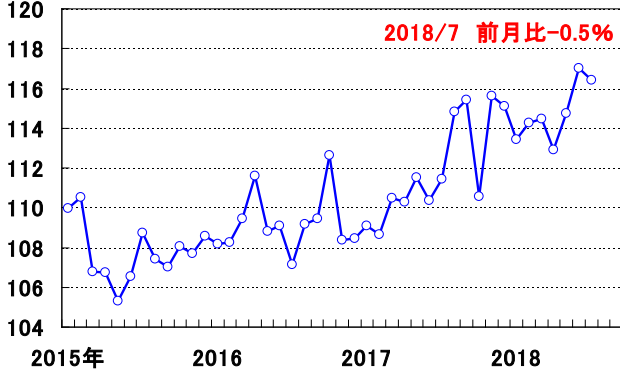
**【今月のトピック:金融政策変更の思惑でパーツが上昇】** タイ中央銀行は、2015年4月の利下げ以降、政策金利を1.5%に据え置いている。8月は、金融政策の変更の思惑でタイパーツが買われる展開となった。金融政策委員会の議事録やウィラタイ中銀総裁が利上げに前向きな見解を示したことが材料視された。加えて、一部の新興国の通貨が急落する中で、タイパーツを安全通貨とみなした資金が流入したことも、タイパーツの上昇要因となった。8月末に、ソムキット副首相は利上げを許容する見解を示した。一方、タイ中央銀行のウィラタイ総裁は利上げに慎重な姿勢を表明し、既往の発言を軌道修正した。

(出所) タイ中央銀行、タイ国家経済社会開発委員会 (NESDB)、ブルームバーグ

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。

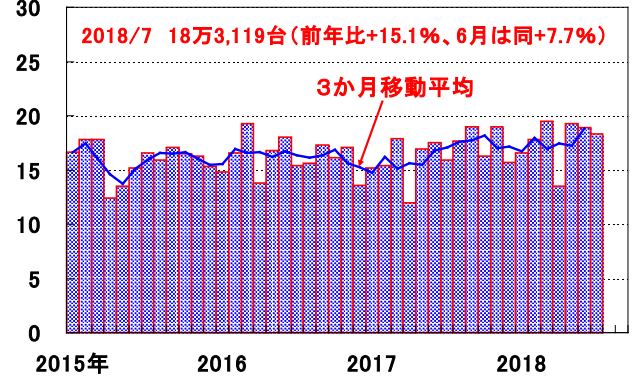
季調済  
2011年=100

### 工業生産指数



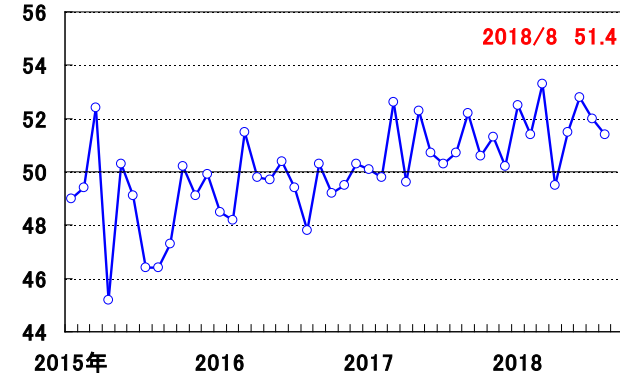
万台

### 自動車生産台数



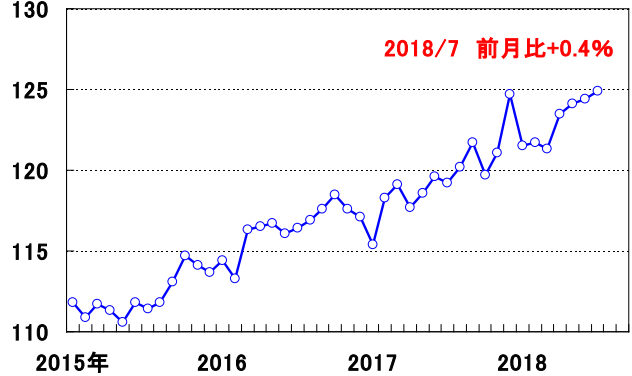
中立水準=50

### 企業景況指数(BSI)



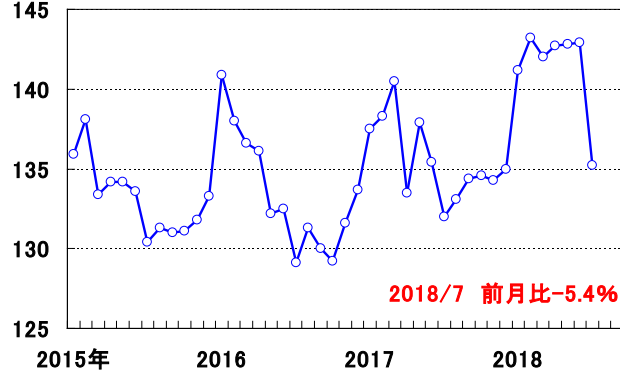
季調済  
2000年=100

### 個人消費指数



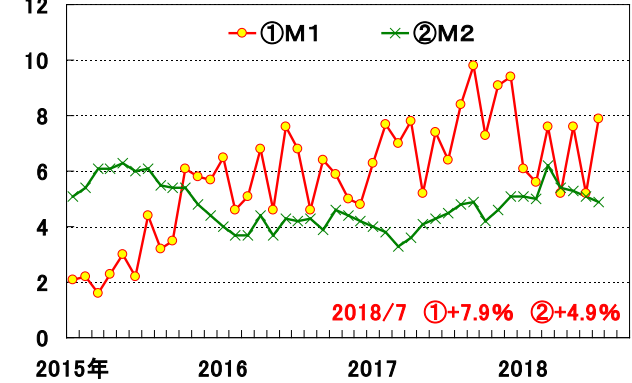
季調済  
2010年=100

### 民間投資指数



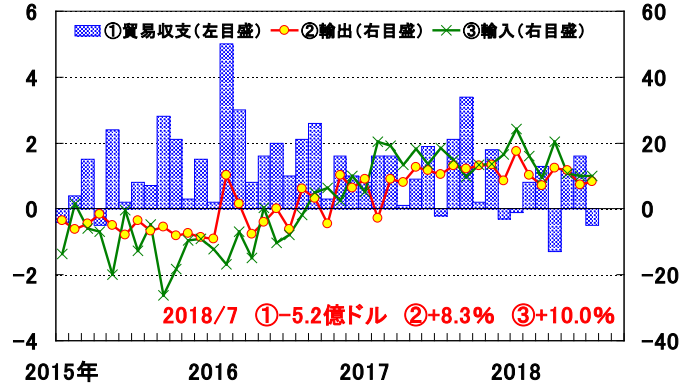
前年比、%

### マネーサプライ



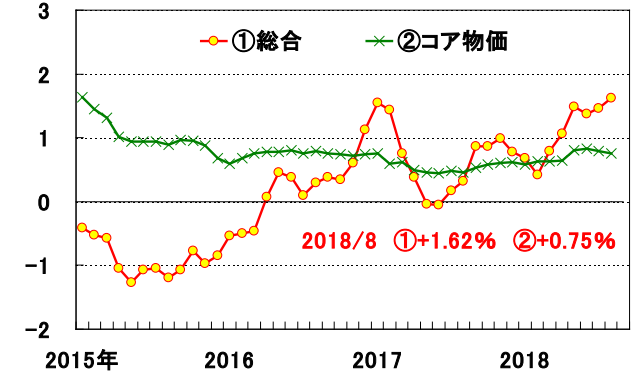
10億ドル

### 貿易収支



前年比、%

### 消費者物価指数



(出所) タイ工業省、タイ中央銀行、タイ国家統計局、タイ工業連盟 (FTI)

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。